

# 令和4年度文化芸術による子供育成推進事業－巡回公演事業－

## ワークショップ実施計画書

制作団体名	公益社団法人日本舞踊協会
公演団体名	公益社団法人日本舞踊協会

内容
<p><b>「浴衣を着て日本舞踊を踊ろう！」</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>● 日本舞踊の基本的な所作を体験</li><li>● 踊りの体験 「風神雷神」～役になりきって生演奏で踊ろう～ (使用曲:「風神雷神」 作曲:渡部進 作詞:藤舎呂凰 制作:公益社団法人日本舞踊協会)</li></ul> <p>日本舞踊は踊りや音楽などさまざまな要素で成り立っている芸能です。実際に浴衣を着て、所作を体験することで、現代ではなかなか学ぶことのできない日本人ならではの所作の美しさを発見してもらいます。体験はお囃子の生演奏で行うことで、音に合わせて踊る楽しさや音の魅力を体感してもらいます。</p> <p>「風神雷神」では、役のイメージを膨らませて、演じることの面白さや、表現することの楽しさを感じてもらおうと同時に、デモンストレーションを間近で鑑賞することで、長い伝統を受け継ぐ日本舞踊・お囃子、実演家に対する興味・関心を持ってもらいます。</p>

タイムスケジュール (標準)
<p>全 110 分程度(授業 2 コマ分+休憩時間) 浴衣の着付け(約 20~30 分) ~ 所作・踊り指導(休憩を含め 約 90~80 分)</p> <p>※所要時間に不都合がある場合は、プログラム内容を短縮、実施時間を放課後や早朝の時間に設定するなど臨機応変に対応いたします。</p>

派遣者数
合計 6 名 (舞踊家・演奏家・スタッフ)

学校における事前指導
実技が中心のプログラムですが、ご要望に応じて質疑応答や給食時間等を利用した懇親タイム等を設定するなど柔軟に対応いたします。保護者や地域の方々の観覧も歓迎いたします。

# 令和4年度文化芸術による子供育成推進事業－巡回公演事業－

## 本公演実施計画書

制作団体名	公益社団法人日本舞踊協会
公演団体名	公益社団法人日本舞踊協会

### 演目

「ひらけ！日本舞踊のとびら」

鑑賞演目：「風神雷神」「浦島」「飛び出す！日本舞踊玉手箱」

### 派遣者数

出演者：22名 スタッフ：24名 合計：46名

### タイムスケジュール（標準）

8時頃：学校到着～搬入（～8:40頃）・仕込（所要時間約3時間）／11時半頃：リハーサル

本番前に安全確認（舞台設備・照明等の安全を先生と確認）

13時15分頃：児童・生徒入場／13時半：開演／15時20分頃：終演 ～17時頃 搬出・撤収

※ご希望の開演時間や搬出入口の状況・環境等により、時間は前後いたします。

### 実施校への協力依頼人員

搬出入時、特に厳しい条件がある場合（体育館が地下・2階以上の場合、トラックの横付け不可等）は、約～10名ほどご協力をお願いする場合がございます。

（可能な範囲でご協力をお願いいたします。作業時は、スタッフが危険のないよう指導します。）

\* 中学校では生徒さんの協力を歓迎します。小学校は教職員・PTAの方をお願いいたします。

### 演目解説

## 「ひらけ！日本舞踊のとびら」

“みる・きく・おどる”をキーワードに日本の伝統芸能である日本舞踊を楽しく体験しながら学んでもらいます。  
最初に出演者が舞台に勢揃いし、ご挨拶(口上)からプログラムがスタートします。

### ～「みる部屋・きく部屋・おどる部屋」～

#### ★日本舞踊とはどんなもの？みんなで日本舞踊家の踊りをみてみよう！

日本舞踊家の実演を鑑賞するほか、“お辞儀・立ち座り・拍子を踏む”などの日本舞踊の基本的な所作を体験します。

★邦楽器について学ぼう！ 日本舞踊の伴奏音楽である長唄(唄、三味線)、鳴物(小鼓、大鼓、締太鼓、笛など)の特色や音色の魅力を演奏や踊りの実演を通して発見してもらいます。

★四季の風物の表現や踊りを体験！ 生演奏に合わせて全員で日本舞踊を踊ります。

### ～鑑賞演目「風神雷神」「浦島」「飛び出す！日本舞踊玉手箱」～

初めて日本舞踊に触れる方にも楽しく、日本舞踊の表現の多彩さを感じてもらえる3作品を選定。

★「風神雷神」 ワークショップで体験する風の神と雷の神の戦いを描いた踊りです。

本公演では、生演奏のフルバージョンでご覧に入れます。

★長唄「浦島」 浦島太郎のおとぎ話の踊りです。

1828年に江戸中村座で初演され今もなお、親しまれている作品です。自然の描写を踊りで表現したり、役柄を演じ分けたり、浦島太郎から老人への見事な早変わりなど見どころが詰まった作品です。

★群舞演目「飛び出す！日本舞踊玉手箱」 舞踊家7名と演奏家12名が勢揃いする群舞です。  
体験コーナーで学んだ所作や踊り、邦楽器コーナーで学んだ表現を随所に盛り込んだオムニバス作品です。

## 児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

- 初めて触れる日本舞踊を楽しく学び体験してもらえるよう司会者と一緒に、日本舞踊のとびら(【みる部屋・きく部屋・おどる部屋】)を開いていくという演出で行います。
- 【みる部屋・きく部屋・おどる部屋】の各場面、実演と体験を交えながら進行します。  
司会進行役が、出演者(実演を披露・解説や体験のレクチャー役)に質問を投げかけ、子供たちと一緒に学んでいくという趣向で展開していきます。
- 体験コーナーでは、全児童・生徒が体育館のフロアで、日本舞踊の基本的な所作や美しい表現を学び、邦楽器の生演奏に合わせて踊ります。
- 配布する公演の資料には、写真を多数掲載、本公演での印象的な場面を書き込む欄を設けるなど、それぞれにお気に入りの体験箇所を見つけてもらえるような構成にします。

## 児童生徒とのふれあい

- 開場時間・体験の最中には、ステージ上で出演者が解説を交えながら見本をみせるほか、フロアにいる児童・生徒の間に入り、直接指導を行います。
- ワークショップ同様、質疑応答時間を設けるなど、ご要望に応じて事後学習の機会を設けることも可能です。また、学校新聞などの取材やインタビュー、撮影にも応じます。